



白門板橋

2008. 3. 15 VOL.29

編集
発行

中央大学学生会 東京板橋区支部
〒175-0082 板橋区高島平2-23-3-101 TEL03-3550-3300



■新書のご案内■
支部創立二〇周年を迎えて!
支部長 小日向孝介

新年おめでとうございます。会員の皆様には、清らかな心境で二〇〇八年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

さて、新年早々の箱根駅伝で、中大は予期に反して七位に終わり、伝統復活はなりませんでしたが、参加した学生の健闘をたたえ、今後を期待したいと思います。

大学本部では、経済の国際化、就学人口の減少に対処するため、逐次改革を実施しております。本年は、大学院ビジネススクールを立ち上げ、即戦力となるべき、高度な専門職知識人を養成することとなります。また二年後には、附属中学校を新設して中高一貫校を実現し、優秀な大学生を確保することを意図しております。

板橋区支部では、お蔭様で、本年創立二〇周年を迎えます。これはひとえに皆様の普段のご支援の賜物と、感謝いたしております。この間、地区ブロック制の創設、支部行事のブロックへの委譲、同好会の活動、他支部との交流の活発化等に努めてまいりました。その結果、当支部の安定化と方向性は確立するに至りました。

ただ、会員増強を図つての財政基盤の確立が残された課題であります。この件につきましては、本年が役員改選に当たりますので、新支部長と執行部に託し、その実現を図りたいと考えております。周年記念事業につきましては、実行委員会を組織して準備を進めておりますが、皆様のご指導、ご協力を願つてやみません。

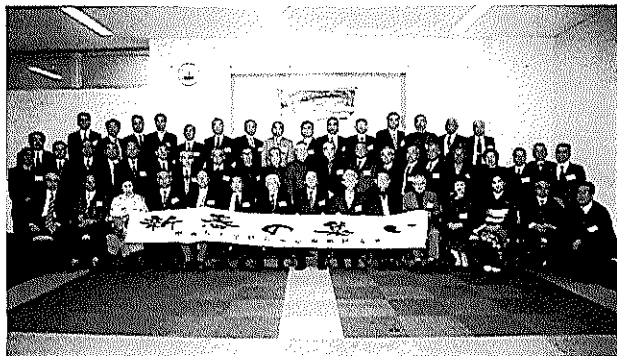
今年一年、支部のますますの進展と、会員の皆様の幸せを願つて、挨拶いたします。

支部のニュース

■五八名が参加して新年を祝う

恒例の「新春の集い」が、一月二五日（金）午後六時から、ハイライププラザいたばし二階の会議室で開催されました。この会場は初めてでしたが、六つの円卓に参加者全員が着席しての宴は、落ち着いた雰囲気でした。

大野事務局長の司会で開会し、小日向支部長の新年の挨拶、前区長の石塚顧問の祝辞のあと、水野



▲盛会だった「新春の集い」

相談役の発声で乾杯！ 歓談の途中、遅れて参加した会員を含めての別室での記念撮影のあと、佐藤副支部長から二〇周年記念事業について説明がありました。つづいて、三田・志村ブロック長からの観覧会の案内と、初参加者の自己紹介が行なわれ、盛大な拍手で歓迎されました。

宴たけなわ、時のたつのを惜しみつつ、校歌、応援歌を、今回初参加の応援団・程塚監督のリードで斉唱し、最後は、全員輪になっての「惜別の歌」、三本締めでお開きとなりました。（池田記）

■そば割烹で盛大な忘年会

支部恒例となった忘年会が、二月一四日（金）、高島平九丁目の手打そば割烹「おかだ」に四四名の参加を得て、開催されました。今回の担当は大谷ロブロック。

垣内ブロック長、小日向支部長、石塚顧問の挨拶のあと、水野相談役の発声で乾杯！

赤穂浪士討ち入りの日に、蕎麦屋で忘年会とは。これで、雪でも降れば言うことなし。などとの軽口も飛び交い、宴は楽しく和やかに進行しました。

ビール、ウイスキー、日本酒、焼酎と、酒は旨いし、食べ切れないほどの美味佳肴。新入会員・田中保成氏の自己紹介が始まる頃には、会場の雰囲気もすっかり盛り上がって、温かい拍手で迎え入れられていました。あつという間に時が過ぎ、充分に親睦も深まった頃、岡田副ブロック長の首頭で三本締め。満腹の腹を抱え、千鳥足で散会しました。（大野記）

■充実したホームカミングデー
台風一過の秋晴れに恵まれた一

〇月二八日（日）、中央高速道から瞥見された富士山の余りの美しさに、感動を覚えました。今年も、高島平駅前、常盤台駅前、板橋区役所前で一八名をピックアップした貸切バスは、多摩キャンパスを目指していたのです。クレセントホールでの開会式でも、この日の富士の美しさに言及された来賓が何人かいらっしやいました。

NHKエグゼクティブアナウンサー・葛西聖司氏（四九年法卒）は、今年も開会式の司会やトークショーにと大活躍で、中でも、親子三代卒業生表彰での絶妙な間合いの取り方には唸らせられました。

メインステージでは、スウィング部演奏、武蔵国府太鼓演奏、応援部演技、オルケスタ・プリマヴェラ（中大タンゴ部OBバンド）演奏などが次々に繰り広げられ、我々を楽しませてくれました。

今年も一〇月二六日（日）開催が決定しています。首都高速中央環状線の開通もあって、中央高速道にすんなり入れますので、ますます快適なバスの旅になりそうです。多摩キャンパスを一緒に訪問してみませんか？（金子記）



母校のニュース

■小金井市に初の附属中学校

中大初の中高一貫教育が、平成二二年春から実施されることになりました。貫井北町三丁目の附属高校の隣接地に、地下一階、地上五階建ての校舎や体育館、運動場を備えた中学校が新設されるのです。男女共学で二学年の定員は一五〇人、三〇人ごとの五クラス編成となります。

少子化が進み、大学全入時代を迎える中、各大学は小中、中高一貫校の設置を進めていて、早大はすでに早稲田実業学校初等部を開校、慶大も新たな小中一貫校を横浜市に開設する予定です。

■箱根駅伝シード権確保

正月恒例の箱根駅伝は、五区山登りで失速、復路でも大きく順位を上げることがなく、総合七位に終わりました。優勝は予想通り駒大でしたが、順天大、東海大、大東文化大など、有力校が三校も途中棄権するというハプニングに恵まれながら、選手の調整失敗が大き

▲9区から10区へと力走!



く響いて、チャンスを逃しました。

■入学志願者は大幅増加

選考方法の変更や新学科の設置などの効果もあって、今年度の入学志願者は、前年に較べると約一万五千人増で、八万人を超えました(後期選考を除く)。注目の法学部への志願者は、三千人余り増加し、今年も超難関となりました。

■野球部監督に高橋善正氏

不振のつづく硬式野球部は、OB会を開き、清水達也監督に代わり、東映(現・日本ハム)時代に完全試合を達成した高橋善正(良昌)氏を起用し、捲土重来を期すこととなりました。移籍した巨人での活躍もあって、知名度抜群のOBの手腕に期待したいところで、前期リーグ戦は二部で三位で

したが、高橋新監督は、早く一部に復帰して大学日本一をめざす、と意気込んでいます。(栗原記)

■母校二五周年記念事業

前号での「記念事業募金」のお願いには、会員多数のご協力をいただき、有難うございました。今回の四六万五千元を加えて、累計五二七万五千元となり、都区内支部では九位から七位に浮上しました。これまでに寄付いただいた皆様方のお名前を列記して、感謝の意を表します。(池田記)

*

小日向孝介、清水治男、池田亘利、中路義雄、平山惟美、栗原三郎、大泉喜義、徳永勝彦、栗原素房、永江益雄、囲碁同好会、板橋区支部、露木久剛、関上裕次、成毛義光、田中義了、小島基之、岩澤忠弘、故・坂井健一、栗山秀男、田中泰治、相沢明、小野沢隆一、滝口信一、仲光義継、下野俊宏、巨勢典子、中山修、牧吉雄、早坂光平、大野正浩、三田喜一、吉田昇、佐藤道則、佐藤義、前田昌則、川口正、吉野昭一、倉田継雄、阿部顕一、菅野元克、佐藤幹夫、古

沢道夫、中三川孝幸、三宅正代、末田紀之、池内雅利、伊藤潤、大森守、金子益朗、久米英雄、豊田哲夫、上里猛彦、岡崎一臣、菅原孝也、関正夫、高木高明、竹田和夫、立川誠二郎、松村武純、水野公一、官村徹、吉岡聯太郎、吉野安三、川崎力男、笠原優、内田繁夫(申込順。複数回の方は初回のみ。敬称略)

■新入会員紹介

▽田中保成(たなかやすなり)
昭和四八年法学部卒
板橋区赤塚新町三ノ一八ノ九
学習塾経営
趣味/剣道(四段)
▽鈴木博(すずきひろし)
昭和五一年法学部卒
練馬区早宮三ノ二一ノ一〇
弁護士 鈴木博法律事務所
趣味/ゴルフ、ハイキング、旅行
▽程塚良男(ほどつかよしお)
昭和四五年文学部卒
板橋区本町三五ノ三ノ一〇一
㈱セントラル興業代表取締役
中央大学応援部監督

告知板

■支部親睦会の日程

支部恒例の親睦会の日程が、次のとおり決定しましたので、お知らせします。

記

日時 四月五日(土) 一二時半
集合 見次公園(志村坂上駅A 2出口から徒歩三分)

会場 魚まる・志村店

会費 四、〇〇〇円

担当 志村ブロック

(幹事・三田)

申込み 別紙で三月二七日まで

■支部定時総会ならびに支部創立二〇周年記念祝賀会の日程

*

第二〇回定時総会ならびに支部創立二〇周年記念祝賀会の日程が、次のとおり決定しましたので、お知らせします。

記

日時 六月二八日(土)

午後三時から

会場 区立文化会館大会議室

申込み 追ってご連絡いたします

なお二〇周年記念事業につきましては、実行委員会を設置して、検討を重ねています。



▲昨年の総会で挨拶する小日向支部長

■同好会だより

*

◎ゴルフ同好会

昨秋一〇月一七日(水)、ノーザンカントリー錦ヶ原ゴルフ場で行なわれた秋のコンペの結果は、左記のとおりでした。

優勝 川崎力男

準優勝 藤井 滋

三位 鹿山 繁

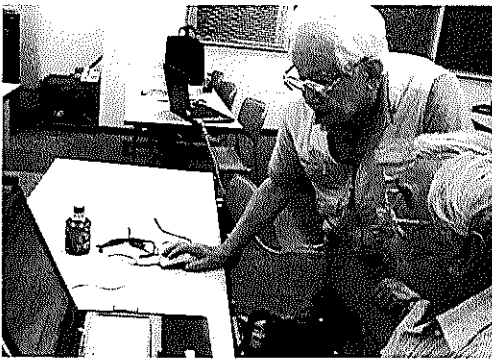
なお春の大会は、四月二日(水)、

送迎サロンバスを利用して、茨城県笠間市のカントリークラブ・ザ・レイクスで挙行します。

◎パソコン同好会

今年も、月二回を目標に、板橋区立ハイライプラザ一階会議室で、初心者講習会を開催します。四月は八日と二四日、五月は一五日と二九日が決定していて、研修

内容は、文書作成、表計算(書類、案内書、葉書、写真の取り込み)、Eメールなどを予定しています。二時間ほどの講義のあとには、楽しい二次会も待っています。世話人の吉岡さん(☎三九三六・八三二五)までご連絡ください。



▲パソコン同好会の講習風景

◎カラオケ同好会

春秋の二回、グリーンホール地下一階のレストラン・サンイチを借り切つて、例会を開催していますが、会費(三、五〇〇円)の割には料理も飲み物も豊富で、年々参加者がふえています。毎回、会長の佐藤義さんが会を盛り上げてくれています。

◎囲碁同好会

二〇名ほどの会員が囲碁を楽しんでいます。毎月第四土曜日一時から、西池袋囲碁サロン(☎三九八五・三二八〇)で、例会を開催しています。年間の行事としては、五月に白門練馬支部との親善囲碁交流会、七月に一泊の囲碁合宿、一二月に忘年会を行ないます。興味のある方は、事務局の布施さん(☎三九六七・一六九三)までご連絡ください。初心者大歓迎!

計 報

▼柴田武之(昭和二七年経卒)

平成二〇年一月七日逝去

*謹んでご冥福をお祈りいたします。

■秋のバス旅行記

下部温泉・風林火山の旅



一月三日、勤労感謝の日、金曜日。土日とつづく三連休の初日とあつて、道路事情は芳しくなかった。参加者三五名を乗せて、板橋グリーンホール横を定時に出発した貸切バスは、当初の首都高速経由を避けて、一般道から中央

高速に入ったが、これが大正解。予想していたほどの遅れもたさず、最初の目的地・昇仙峡を目指す。支部長挨拶、乾杯がすむと、後部サロンでは、本格的な宴会が始まっていた。日本酒の一升瓶と四合瓶が林立し、昇仙峡・小松屋で昼食を摂る頃には、顔は真っ赤で足元も覚束ない連中がテラホラ。

足元が定かな人たちは、溪谷美に映える紅葉見物を堪能して、信玄隠し湯の一つとして名高い下部温泉の「下部ホテル」へ。

ここも行楽シーズン三連休のせい、子供連れの家族客で賑わっていた。大浴場も、翌日の朝食バイキングの食堂も、芋の子を洗う

ようなという形容がびつたりの混雑ぶりだった。

ひと風呂浴びての宴会夕食、つづいてのカラオケ二次会も大いに盛り上がり、一年後のバス旅行への思いを掻き立ててくれた。

* *

翌朝、八時半にホテルを出発して富士川沿いを走ったバスは、九時二〇分に身延山久遠寺に到着し



▲久遠寺287段の石段の下で

た。二八七段の石段を登りきって本堂参拝と記念撮影。

狭い参道での車のすれ違いに苦労したりしながら、「風林火山博」会場へ。甲府市役所横の県民情報プラザには、多くの参観者が詰め

かけ、NHK制作のビデオや迫力ある切絵の展示に見入っていた。会場出入り口の売店では、風林火山グッズや山梨県の特産品を販売

していて、地酒と佳肴を購入する宴会好きも多かった。

昼食を郷土料理・奈良田本店での補助鍋ですませ、メルシヤン勝沼ワイナリーへ向かう。ワイン造りの説明と試飲のあとは、それぞれが買物に励んでいた。

日本一のワイン王国・山梨にあつて、清酒は地味な存在ではあるが、キラリと光る名酒も多い。今回の旅でも「笹」「七賢」「谷核」「春鶯囀」などの甲斐の日本酒が宴会場や二次会でも出されたし、土産に買い求めた人もいた。その中の数本が、帰りのバスで空になり、相も変わらず後部サロン席は宴会場さながら。その盛り上がりは、板橋区役所前に帰着するまでつづいていた。

(金子記)

■春の台湾旅行

「友好の桜」碑の前で

*

去る二月三日(金)から三泊四日の日程で、小日向支部長を団長とする有志一三名が、台湾を訪問した。台南を観光し、高雄から一年前に完成したばかりの新幹線の旅を楽しんで、台北に到着した。



今回の旅行のもう一つの目的である「友好の桜」碑見学は、中正記念堂・曾館長(碑の右側)じきじきの説明を受けた。一九四三年、学徒出陣のため志半ばで学園を去った台湾出身の中央大学生に、一九九九年、特別卒業証書を授与したのがきっかけとなり、日本と台湾の友好の絆の桜が植えられたもの。

(金子記)

ブロック紹介

②「大谷口ブロック」

■ブロック制発足一〇周年

大谷口、大谷口上町、大谷口北町、小茂根、向原に住む二五名の会員が、垣内ブロック長を中心に、支部行事にも積極的に参加し、元気に活躍しています。大ジヨッキ片手に「機嫌の垣内さんにお話を伺いました。」

「元気に楽しい集まりを続けているうちに、あつという間に一〇年が過ぎました。今後とも、健康に留意して、ブロック皆で会を盛り上げていきます」と

と意気盛んでした。

ブロック担当で開催した集まりには、平成一三年四月、茂呂山公園での観桜会を始め、近々では高島平「おかだ」での忘年会があります。これまでも割烹「吉岡屋」、スナック「ふる里」「かえで」等地元の店を利用した忘年会の数々がありました。

宴会好き、お祭り好きの会員が多く、ホームカミングデーや秋の

前号から登場した「新シリーズ」第二弾。観桜会や忘年会など、支部活動の中心を担っている各ブロックを、順次紹介していきます。

バス旅行の車中では、中心になって盛り上げています。支部が、一〇年、一五年を経て二〇年を迎えようとしている今、会員の増強、とくに若い卒業生の参加を促す努力を重ねつつ、楽しく魅力あるブロック作りを目指しています。

■大谷口ブロックの名所

支部観桜会を開催した茂呂山公園は、桜の名所で、近くに茂呂遺跡（旧石器時代を代表する遺跡の一つ）があります。



▲大谷口の両巨頭

石神井川沿いにある都立城北中央公園は、区立上板橋体育館、陸上競技場、野球場、テニスコートのほかに、児童公園やドッグランまであります。

石神井川は、小平市の小金井ゴルフ場付近に源を発し、北区堀船で隅田川に合流して、上流から下流の岸沿いには、桜の名所が数多く点在しています。

昭和六年に建てられた大谷口水道タンクは、現在は壊され、新しく、大谷口給水所として建設中です。完成の暁には、板橋区、豊島区の住民一二万人を対象に、飲料水を供給する施設となります。

大谷口二丁目にある、真言宗豊山派の西光寺は、農耕伝説が残されている「しろかき地蔵（四七センチの石像）」で有名です。

■区内一火事の少ない地区

大谷口ブロックは、区内でも最も火災事故の少ない地域で、これは防災リーダーの岡田副ブロック長をはじめ、地域住民の防災・防火に対する意識の高さにあると思われまます。岡田さんは現在、板橋消防団第五分団長です。

(大谷口ブロック・徳永記)

TOPICS

石塚顧問の叙勲を祝う

☆☆☆

●板橋区長を四期一六年務めて引退した石塚輝雄氏（支部顧問）が、昨春秋の叙勲で旭日小綬章を受章したことを祝う集いが、去る二月二〇日（水）夕に池袋のホテル・メトロポリタン「富士の間」で開催された。



▲中央が石塚顧問

●当日は板橋区商店街連合会など一〇団体の会長が発起人となり、三〇〇名を超える参加者が会場を埋め尽くした。当支部からも小日向支部長ほか執行部役員一〇名が出席して、石塚顧問の栄誉を祝福した。

(平山記)

■白門作家シリーズ

「隆慶一郎文学」拾い読み



『駆込寺蔭始末』

著者／隆慶一郎
発行所／株式会社光文社

隆文学は、四度目の拾い読みになる。なぜ四度もという疑問に答える。

隆作品を読み耽り、全作品を読破した気でいた私が、ある日、通勤の帰途、高円寺に途中下車して古本屋を覗いたとき、『駆込寺蔭始末』（光文社刊）という文庫本を発見した。

さらに調べると、徳間書店からも『風の呪殺陣』が出版されていて、書店に取り寄せてもらった。別れた恋人に再会した喜びに似た思いだった。

そして、二月三日の朝日新聞朝刊「文化欄」に、「隆慶一郎は終わらない」という記事が載った。没

後一九九年。異色の作家・隆慶一郎に再びスポットライトを当てたのである。

『駆込寺蔭始末』（第二話）の中に、筆致を探ってみると、

（～中略）

「さあ、去り状を書いて頂戴」
おるいが改めて言った。

「い、いやだ」

浪人の声は悲鳴に似ていた。

「じゃあ仕様がないわね」

おるいは子供の手を引いて石段に向かった。その背に浪人の断腸

の思いをこめた言葉がとんだ。

「呪ってやる！ 呪ってやるぞ！」

ぞ！」

おるいがくるりと振り返った。

「呪うって？ あたしが呪い殺せると思ってるの、あんた？」

勝ち誇ったような声だった。

（～以下略）

亭主（呪術師で人を殺めて金を稼ぐ）に愛想をつかしたおるい（色のソクツとするような女房）が離縁を迫ったが、応じない亭主を見限り、子を連れて駆込寺へ走ろうとする女房に、待ち伏せた亭主が呪文をかけて殺そうとするが、

狙いは女房だけでなく駆込寺そのものをも憎み、庵主、院代まで悉く呪い殺すというのに怒った磨

（主人公）が、左袈裟にかけて十分に切ったが浪人はまだ生きていた。…そして、懐から抜き出した二本のノミを矢継ぎ早に女房と息子の咽喉笛に突き立てた。

隆慶一郎の作品は、どれを読んでも面白い。そして、読み残した最後の一冊『駆込寺蔭始末』は、小品ながら、小気味よいスリルと

サスペンスが楽しい。

作家・隆慶一郎は、デビューしてからわずか五年で夭折した。天下の朝日新聞が、隆慶一郎を探りあげた理由が分かる気がする。

（平山記）

○●大相撲一月場所

中大出身力士星取表

豪風、初の敢闘賞で小結へ

▽出島（武蔵川）
本名・出島武春 平8卒

西小結 3勝12敗

▽玉春日（片男波）
本名・松本良一 平6卒

西前頭5枚目 4勝11敗

▽豪風（尾車）
本名・成田 旭 平14卒

東前頭7枚目 12勝3敗

▽舂光理（千賀ノ浦）
本名・荒井光理 平17中退

三段目東97枚目4勝3敗
（池田記）



■「四場」が「四葉」に？

なぜ四葉という地名になったのかは、定かでない。しかし慶長三年（一五九八）九月の徳丸村検地帳に、「四つば」という地名が出てくる。今回、何人かの方にお話を伺ったが、これだという確信のもの

地名の由来…②①

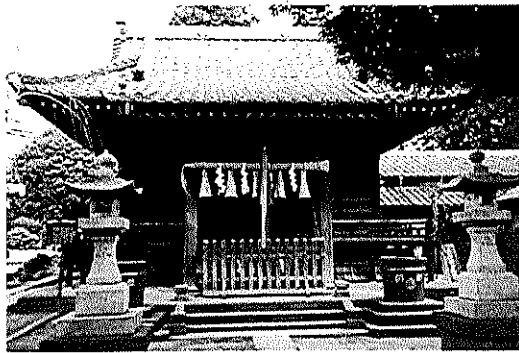
「四葉」の巻

てる由来には行き着けなかった。

その中で一つ注目したのが、「四つ場」である。当時の四葉地区には四つの居村（村の中でも村人がまとまって住んでいた所）があった。『四場』が「四葉」になったという説である。確かに天保七年（一

八三六）の四葉村絵図を見ると、そのようにも思える。慶長以前の居村と天保七年の絵図では、年代の隔たりがありすぎるので、何とも言えないが…。

四葉村の鎮守は、四葉稻荷神社である。創建は元龜三年（一五七二）六月と伝えられている。社殿



▲四葉稻荷神社の本殿

は種井坂（たないざか）の脇に祀られていたという。

■稻荷神社、いくつかの考察

稻荷社は全国で約一万九千八百社ある。数ある日本の神社の中でも一番の多さを誇っている。稻荷神社で祀られている神の名は、「宇

迦之御魂神」（うかのみたまのみみ）である。「倉稻魂命」（うがのみたまのみこと）ともいう。「うかのみたま」とは、イネに宿る精霊をさす言葉であり、稻荷神が五穀豊穡をもたらす神とされる所以（ゆえん）である。

稻荷神社の総本山とされる京都の伏見稻荷大社では、和銅四年（七一）、「稻荷山に稻荷神が現われた」とされる。そしてこの地の豪族・秦（はた）氏の勢力拡大につれ、分社が広がった。

世に喧伝されている狐との関係はどうなのか？

春になると山から下りてきて、穀物を食い荒らすネズミを退治する狐を、田の神とする風習が昔からあった。それで狐は稻荷神の使いとされてきたのである。

また、平清盛が若い頃、狩をしていて命を助けた狐が「茶枳尼天」（だきにてん）であったということとでこれを祀り、平家一門が茶枳尼天信仰を広めた。茶枳尼天は、狐の姿をしたインドの悪神であったが、仏教では仏の一つとされてきた。神仏習合と、室町時代以降に商人の力が拡大する中、「富をも

たらす神」として、商売の神ともなり、全国に広まった。（中三川孝幸記）

* 編集後記 *

●一二年前に胃切除術を受けて、ウイスキーの水割りから日本酒に切り替えました。今までほとんど量が呑めなくなっていたので、おいしくて味わいのある酒にしたのです。家の近くには若松屋酒店があつて、「久保田」の千寿紅寿、碧寿、萬寿や「八海山」「浦霞・榊」「八張鶴」「田酒」などのプレミアム酒を定価で入手できます。池袋・西武地下一階の試飲即売コーナーもよく利用しています。「酔仙」「龍力」「天覧山」「英熟」「二ノ蔵」などが常連蔵元です。昨秋のバス旅行では山梨の四銘柄（笹一」「七賢」「春鶯囀」「谷桜）が呑めて幸せでした。座右の書『日本の名酒事典』（講談社刊）で、これまでに呑んだ日本酒の蔵元数をチェックしてみたら、なんと五〇〇を超えていました！

（金子記）